平成19年度 調査研究 「自ら学ぶ力の育成」
概 要

1　趣旨

２０００年及び２００３年の PISA 調査において、日本の生徒の学校外での学習時間は OECD 加盟国の中で下位に属すると報告された。また、平成１７年度「高等学校教育課程実施状況調査」において、学校の授業以外に学習を全く、または、ほとんどしない高校生は３９．３%にのぼった。

「学力」の問題は一面において生徒が「自ら学ぶ」主体的な学びの量及び質の問題であると考える。「自ら学ぶ力」の向上は、教師の側の授業改善とともに、学力向上に向けた両輪となるものである。授業以外の学習活動の絶対量を増すこと、学習スキルを向上させること、学ぶ動機の内在化を図り学びの質を高めること――これらを通して「自ら学ぶ力」を鍛え、「確かな学力」の育成につなげたいと考える。

本調査研究では、高等学校７教科・科目において「自ら学ぶ」主体的な学びの量と質の現状を検証し、これを向上させることで「確かな学力」の育成を目指した。そのために、教科ごとの特性に応じて「自ら学ぶ力」を育成する方法とその課題を探り、各学校の今後の実践に役立つ事例研究を進めたものである。

2　対象校種と教科等

調査研究期間は１年間とし、高等学校を対象とした。教科・科目は下記のとおりである。

国　語	地歴・公民	数　学	理　科	美術・工芸	外国語	家　庭

3　経過概要

	開催期日	内　　容
第１回	平成１９年 ５月２９日（火）	調査研究協力委員委嘱状交付 調査研究趣旨説明 講 義：「県立高校『学習力』育成事業の概要について」 高校教育指導課　小出 和重　指導主事 教科別会議
第２回	７月から１１月に 各教科別に計画し、 実施した。	第２回調査研究協力委員会
第３回		第３回調査研究協力委員会
第４回		第４回調査研究協力委員会 調査研究報告書の作成